

2022年度年末手当等に関する申し入れ

第1回団体交渉行っ（その1）

私たちの
要求は

基本給月額額の3.3ヶ月
新型コロナ特別手当5万円

JR東労組ステーションサービス協議会は、本日第1回団体交渉行いました。
職場における苦勞と努力の現実を会社に対して訴えてきました。
JR東労組の要求の趣旨

- ・ステーションサービスの第2四半期決算は、経営状況が大きく改善され「増収増益」となった。これは、組合員・社員が今までにない働き度の中、日々たゆまぬ努力をしてきた結果だ。
- ・通期予想も純利益が4,800万円であり、昨年度と比べて7,300万円上回る予想を立てている。
- ・全国旅行支援が始まるとともに、インバンドでは個人旅行も解禁された。下期においても多くのお客さまが鉄道を利用することが予想される。
- ・第2四半期決算の現状と今後の見通しを考えると、収入確保を期待することができ支払い能力は十分にある。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自身の体調管理にも日々、細心の注意を払いながら品質の高いサービスに奮闘し続けてきた。特別手当として全従業員を対象に一律5万円を支給するべきだ。
- ・近隣のみどりの窓口閉鎖に伴い定期券多売期には、サポートコールシステムでの問い合わせ件数が通常の約2倍に増え、被制御駅の係員も休憩時間に呼び出され休憩が取れないなど弊害が出ている。
- ・9月や10月の3連休も多くのお客さまの利用があり、問い合わせの増加やと列が続くなど様々な課題がある。
- ・業務量が増加の一途を辿る中、各箇所でも慣れなお客様案内に努め、安心して利用できる環境をつくり出している現実だ。
- ・昨年度の手当や今年の夏季手当の減少により日々の生活が苦しくなっている現状の中、物価上昇により組合員・社員の生活は悪化している現実だ。
- ・私たち組合員一人ひとりの生活を維持する責任が会社にはある。
- ・賃金や手当があがらなければ、これまで以上に転職や退職を考える社員が増加の一途をたどると危惧している。

満額回答しかない！

**今までにない働き度で増収増益を実現した組合員の努力を、
会社経営陣は強く受け止めるべきだ！**